

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)

《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F

Tel:03-3519-5181 Fax:03-3597-5171

メール: jaera-homepage@elv.or.jp

URL: http://www.elv.or.jp/

◆先日、某社がオプション設定ながら、ボディを自動的にきれいにする「セルフクリーニングテクノロジー」を設定したという。洗車に費やす時間から解放される画期的アイデアだ。◆その昔、休日ともなればオンボロ車ながら朝から洗車をし、ワックスをかけ、午後からドライブと楽しい一日を過ごしていたものだ。今はどうだろう。もう何年も自分では洗車などしたことはない。自分で洗車してまで乗りたい車がないのか、自分で洗車をするという車に對する愛情がなくなってきたのか、どこに對する愛情がなくなってきたのか、◆また、シニア世代(60~70代の男女)を対象にしたアンケート調査で、40%の人が毎日車を運転していて、そのうち80%の人が体力、視力、判断力などに不安を感じ、半数以上が出来れば今後は運転したくないと回答している。◆高齢化社会を迎えてますます、あらゆる年齢層のニーズにこたえられるような車づくりをメーカーにはお願いしたい。体の一部としていつまでもライフスタイルの中で輝き、いつまでも愛情を持ち続けられるような車の誕生を望みたい。

田村 幸男 (広報部会長)

目次

巻頭言	1
環境省受託事業終了報告	1 & 4
ELV安全作業指導員ご紹介	2
ELV機構便り	
1.リサイクルシステムの停止	2
2.被災車両撤去に関する協定	2
3.東北ブロック会議報告	3
4.中部・北陸ブロック会議報告	3
5.オートアフターマーケット開催報告	3
6.環境省webサイトの更新	4
スクラップ市況最新情報	5
自再協からの緊急要請について	5
【PRページ】 ㈱日刊市況通信社	6

平成24年度 環境省受託事業 「自動車リサイクル連携高度化事業」の終了について

《事業概要》

日本ELVリサイクル機構が平成24年度事業として取り組んできた「自動車リサイクル連携高度化事業」が3月末を以て終了し、先ほど、委託元の環境省への報告が行われた。

本事業は、同じく環境省の委託を受けて昨年度に実施した実証事業をさらに発展させ、現在、ベースメタルのリサイクルが中心となっている中小規模の解体業者が、相互に連携して、規模の経済性を高めることにより、単独では経済性に乏しい貴金属およびレアアース(磁石)等の再資源化の効率向上、コスト低減を図ろうというものである。

今回の実証実験では前回規模からスケールアップを図り、ELV機構会員273事業所が参加して行われた。参加事業所を東西に分け、回収部品の運搬、集積体制を構築するとともに、それぞれの地区に定めた精錬業者と連携して行われた。

また、各地域に事業実行委員会を立ち上げ、事業期間中数回会議を開催して、連携する業者間の調整を行うとともに、実証事業の進め方を解説したマニュアルの周知等を行った。

1. 貴金属等の回収事業

今回の実証事業における物品の回収期間は2012年11月～12月の約1ヶ月間で、その間に対象として取り扱った車両台数は、東が6,099台、西が5,674台の合計11,773台に上った。

◆回収対象部品と回収量(東/西別)

エンジンコンピューター	2,849kg (1,356kg/1,492kg)
エアバッグコンピューター	1,358kg (754kg/604kg)
エアバッグカプラー	444kg (181kg/263kg)

◆回収品の引き渡し先

東地域 JX日鉱日石金属(日立市)

西地域 アサヒブリテック(尼崎市)

◆評価結果(採取量)

- プラチナは一定品位に満たなく採取量はゼロ
- 金(488.1g)は、エアバッグコンピューター、エアバッグカプラーで品位が高い
- 銀(2,747g)、パラジウム(347.6g)はエンジンコンピューターで品位が高い
- 銅はエンジンコンピューターで488kg、エアバッグコンピューターで214kg、エアバッグカプラーで73kgが採取された。

2. ワイヤハーネス処理実験

現在、使用済自動車から取り外されたワイヤーハーネスは80%以上が解体時の状態で輸出されているが、国内リサイクルによる資源の安定確保、バーゼル条約の遵守等に鑑みて、効率的な処理方法についての実証を行った。

◆参加事業者/処理台数: 北海道の20業者/1,200台

◆事業概要と実験結果

- 車体からワイヤーハーネスを分離し、その後コネクター類を切断した。
- 引き渡し先の二次処理事業者において、ナゲット処理(約10トン)及びラフチョップ処理(約6トン)を行い、それぞれの工数、採算性の評価・検証を行った。
- 処理後、精錬業者に引き渡し品位分析を実施。

①ナゲット処理(9,989kg)

処理後重量	銅ナゲット	5,994kg(60.0%)
	ダスト・わた	3,649kg(36.5%)

(P4につづく)

前々回(vol.47)に引き続き、安全作業指導員としてご活躍いただいている皆さんをご紹介します。
 なお、安全作業指導員の皆様にお答えいただいた質問は次の通りです。

- Q1：安全作業指導員を引き受けたきっかけは何ですか？**
Q2：安全作業指導員になって苦労されたことはどんなことですか？
Q3：安全作業指導員になってよかったこと、学んだことはどんなことですか？
Q4：安全作業指導員としての抱負は何ですか？

平地 健さん (有)平地商会・宮城県)

1. 宮城県内には、最低一人の安全作業指導員を置くべきと思い引き受けさせていただきました。
2. 事業者様を訪問させていただきますが、私自身、大変緊張し、先方に伝えるべきことを分かり易く伝え、理解していただき実行していただいているか自信がないことです。
3. 良かった点は、安全指導後に事業者様から感謝の言葉を頂く時です。学ばせていただいたことは、安全に解体していたくためには自分も学び、人に伝える勉強となることです。
4. 適正処理を一人でも多くの方々に伝え、業界全体で安全作業を促進し、業界のレベルアップに貢献したいと考えます。◇



松田 和生さん (MR 解体工業・沖縄県)

1. 沖縄県に安全作業指導員が不在になったため。誰かがやらなければならない仕事であり、後輩の育成も兼ねてやることにしました。
2. 2月からですので、いまから苦労してみます。しかし苦労はありますか？
3. 指導者、リーダーは好きですので、張り切っています。
4. 解体業者が法を守り、社会に貢献出来る業界になれるよう、その一翼を担えたら幸いです。◇



石井 恒冶さん (㈱栃木パーツ・栃木県)

1. 自動車解体業のレベルアップに自分が役立てるのであればと思い引き受けしました。
2. 安全作業について相手に正確に伝えることと指導相手先に不快な思いをさせないような言葉遣いに気をつけました。
3. 良かったことは、自動車リサイクル法を再確認できたことと、自分自身のスキルアップができたこと。学んだことは、リサイクルシステムに関することと安全作業に関することです。
4. 色々な会議、講習会などを通して、自動車解体業の様々な問題点などを提議していきたいと考えます。◇



呉宮 廣哉さん (㈱リーテックス・秋田県)

1. 所属組合より指令を受けてお引き受けしました。
2. スケジュール調整に苦労します。
3. 指導する側に立って、改めて知識を広げられること、様々な業者さんと接し見識が広がったことです。
4. インストラクター(安全作業指導員)としての技術・知見を更に磨きたいと思っています。◇



ELV機構便り

《GW中の自動車リサイクルシステムの対応について》

自動車リサイクルシステムは、今年のゴールデンウィーク期間中の5月2日(木)から6日(月)までの間、メンテナンス停止するため利用できません。

また、同時期、各問い合わせ窓口(コンタクトセンター、事業者情報登録センター、輸出返還事務センター)も休業となります。(コンタクトセンターは、電話問い合わせのみ5月2日(木)稼働)
 なお、本件の問い合わせ先は:

自動車リサイクルシステムコンタクトセンター

050-3786-7755(平日8:30~20:00、土日祝日9:00~18:00)



～被災車両撤去に関する協定～

山陰ELVリサイクル協議会(鳥取県)は、去る3月26日、鳥取県知事公邸にて鳥取県及び鳥取県内19市町村と「災害時における被災車両の撤去等に関する協定」を締結いたしました。

締結式には、平井 伸治 鳥取県知事、竹内 功 鳥取市長(県市長会会長)、石 操 日吉津村長(県町村会会長)が出席、協議会からは西川会長、福島副会長、大村幹事、金山氏が出席いたしました。

協定書に署名後、平井知事より「初期段階の復旧活動で妨げになる被災車両の撤去に、プロの力をお借り出来ることは、心強い。」とのコメントをいただきました。西川会長からは、「協定締結が完了し、災害時の支援体制が整いました。私達の専門知識や技術、また、東日本大震災時の支援経験を活かし、微

力ながらお手伝いさせていただきます」と挨拶を行いました。

なお、山陰ELVリサイクル協議会よりELV機構に対し、山陰地域が大災害に見舞われた際、協議会会員も被災し活動が困難なこともあり得るため、その際は支援をお願いしたいとのメッセージがありました。□



鳥取県知事公邸での協定締結式に臨んだ協議会役員他



～平成25年度第1回東北ブロック会議 報告～

報告者:ELV機構事 藤原 和子

開催日:4月11日 開催場所:仙台市内「パレスへいあん」
《開会》開会宣言に引き続き、平地 健ブロック長(宮城県)の
元気な挨拶があり、議事次第に沿って以下の報告等が行われ
ました。

- ①「自動車リサイクル士制度」に関する検討進捗状況
(河村代表理事)
 - ②機構会員が参加して取り組んだ「回収高度化事業」の経過
報告 (ELV機構事務局)
 - ③HP上のバナー広告募集開始 (ELV機構事務局)
 - ④「未来政策部会」活動報告 (ELV機構事務局)
 - ⑤「エアバックの適正処理強化」 (ELV機構事務局)
 - ⑥(無許可)不適正業者の情報提供のお願い
(ELV機構事務局)
 - ⑦「中古車の輸出時における一次的な部品の取外し範囲につ
いて」 (経産省自動車課小林係長)
 - ⑧「使用済自動車の定義及び違法解体ヤード等対策の推進
について」 (同上)
 - ⑨新冷媒「HFO-1234yfをカーエアコン用冷媒として使用する自
動車の取り扱いについて」 (同上)
 - ⑩「フロン・エアバック引取り実績(2012年度)」
(自再協・須藤部長)
 - ⑪「車上作動処理現地監査数及び措置あり事業所内容に
ついて」 (同上)
 - ⑫監査以外の適正処理徹底方法の検討内容 (同上)
- なお、⑫に関して、自再協では、不適正処理を行った事業者

に対しては、平成25年10月1日以降、契約取消の上、自再協
ホームページ上に事業所名・所在地を1年間公表する措置をと
るというものです。また、自再協では、フロン類回収ポンベの期限
切れが増えている件、震災対応のエアバック類については引き続
きモジュール状態での回収を2014年3月末まで継続(宮城・福
島に限定)することについて注意喚起しています。

その後、各県から近況報告があり、活発な意見交換がありま
した。以下が主な項目です；

- 震災時の車両処理は概ね完了した件。
- 被爆車両を使用済車両として受け入れられる線量の基準
値の設定に関する件。
- 高線量被爆車両の保管場所の設置要望の件。
- 被爆金属くず(ボディプレス・ラジエーター・コンデンサー)等の
対応策の件。

《報告者感想》

- 震災後2年が過ぎてもいまだに解決されぬ問題が多々ある
ことを改めて認識した。
- 3年連続の大雪で作業効率が低下。雪解けでようやく集
荷活動が活発化してきており、4月の方が年度末(3月)より
集荷台数も上向いてきたとのこと。
- 豪雪対応は想像を絶するものがあり、聞く話は驚きであり
本当に衝撃的であった。
- それでも「東北の仲間は皆元気！新しい取組を見出そうと
する意欲があり、チャレンジする絆がある」という印象を持っ
た。
- 数年前までは「まだまだ俺が頑張れる！」が当たり前だった親
世代から次世代への継承を重視した、若い人が参加でき
る環境づくりが進行している様子が感じ取れた。□

～中部・北陸ブロック会議 開催報告～

報告者:ELV機構事務局 奥野 孝樹

平成25年3月9日(土)13:00よりテルグリーンパーク津にて、中
部・北陸ブロック会議が開催されました。外部からは自動車再
資源化協力機構、スズキ(株)、マツダ(株)にご参加いただき、
ELV機構からは各地域団体代表者及び関係者、本部より長
谷川副代表理事、奥野事務局長が出席しました。さらに、今
回より中部・北陸ブロックに新たに加わった長野県ELVリサイクル
協議会からの参加もあり、会議は総勢26名で執り行われまし
た。

冒頭の吉田ブロック長の開会宣言に続き、岐阜県ELV協議会
の金森会長のご提案により、震災2周年を迎えるにあたって震災
被害者に対して黙とうを行い、それからブロック会議がスタートし
ました。

会議前半は、長谷川副代表理事のご挨拶、参加者紹介、自
動車再資源化協力機構須藤部長のご挨拶から始まりました。

続いてスズキ(株)より新型ワゴンR搭載リチウムイオン電池の回
収スキームに関するご説明、マツダ(株)よりアテンザ・アテンザワ
ゴンーELOOPキャパシタの強制放電処理に関するご説明が
ありました。その後、各県の近況報告が行われました。

会議後半は、事務局より平成24年度自動車リサイクル連携高
度化事業(回収高度化事業)や自動車リサイクル士制度等の
ELV機構活動報告があり、それに続いて自動車再資源化協力
機構 須藤部長との意見交換会が行われました。



吉田ブロック長就任
後初めての中部・北
陸ブロック会議でし
たが、司会進行を務
めたELV三重 岡野会
長によって終始滞り
なく議事が進行され
ました。□

会議風景

～第11回 国際オートアフターマーケットEXPO2013 開催報告～

報告者:ELV機構事務局 相澤 静香

平成25年3月13日(水)～15日(木)に開催された「第11回 国
際オートアフターマーケット EXPO2013」にELV機構のブースを出
展しました。

ELV機構のブースにはエアバッグ・インフレーター・シートベルトプリ
テンショナー等を展示し、DVDやパネルなどを使って、自動車リ
サイクル法の概要やELV機構の活動内容を紹介しました。□



ELV機構展示ブースの様子

ロスト 349kg(3.5%)
 再資源化処理結果(PPC日比製錬所)
 銅分 5,922kg(品位98.8%)
 採取量 5,863kg(採取率99%)

②ラフチョッパー処理(6,126kg)

処理後重量(細破砕品): 6,085kg(ロスト12kg/0.19%)
 ※粗破砕後に細破砕を実施)
 再資源化処理(三井金属竹原製錬所)
 銅分 4,018kg(品位66.1%)
 採取量 2,411kg(採取率60%)

3 ネオジム磁石回収実験

HV車、EV車の普及により、将来ELVに占めるこれら車両の台数が増加することが見込まれるため、駆動用モーターに使用されるネオジム磁石の回収可能性について回収実験を行った。

◆実施事業者 山梨県1事業者

◆処理台数 10台

◆実験内容

①ネオジム磁石を含む部品の解体

HV車モーター部分のリサイクルにもっとも適切な解体度合いの実証を行う。

②ネオジム磁石解体時の消磁可能性の検証

強力な磁性を持つネオジム磁石の解体性効率向上を図るため、加熱処理による消磁性の可能性検証。

③ネオジム磁石の再資源化の検討

ネオジム磁石原料製造メーカーによる分離・消磁したネオジム磁石の分析と、おおよその買い取り条件の評価。

◆実験結果

①解体工程

モーターの位置、解体方法の確認により、解体工程で取り出せるネオジム磁石の状況把握を行った。

②解体時の消磁処理の検証

バーナーを使用した加熱により消磁が可能であることを確認した。加熱時間は、8枚の磁石で構成されるモーターで約15分間。

③ネオジム磁石の再資源化検討

成分評価結果によると、ネオジウム磁石の分離が確認された。

(成分評価結果)

	駆動モーター	ジェネレーター
合計枚数	16枚	8枚
評価重量/1枚	69g	33g
ネオジム(Nd)	18.49%	26.04%
プラセオジム(Pr)	5.83%	0.14%
ジスプロシウム(Dy)	7.57%	5.53%

なお、製造メーカーによると、再資源化に適性な処理ロットは200kg(HV車400台相当)であるが、初期

段階では50kg(100台相当)で対応可とのこと。

《本実証実験事業のまとめと今後の課題》

1. 貴金属等の回収事業

●ノウハウの共有化

貴金属等の回収を採算ラインに乗せるためのノウハウ共有化に向けた取組の推進

●回収物品の高付加価値化

金属含有の品位を高めることで採取率が向上し収益性の向上が期待できるため、二次的な処理の工夫などの検討が必要

●輸送の効率化

実証実験では輸送効率、輸送コストにバラつきが見られたため、効率的な輸送方法の検討が必要

2. ワイヤハーネス処理実験

●解体時の加工効率化

ワイヤーハーネスの回収作業、コネクタ切断作業の工数が解体業者ごとにバラつきがあるため、処理課題や作業効率の検討が必要

●二次処理の効率化

効率向上には専用処理装置の導入が有効であることから、一定量の引き渡し確保のため、解体業者の共同出荷などの検討が必要

●精錬事業者との連携強化

引き渡し条件の検討など、連携強化に向けての取り組み継続が必要

3. ネオジム磁石再資源化実験

●採算性の確保

実験では、ネオジム磁石の消磁において、コストに見合う生産性が見られなかったため、効率的な装置の導入の開発が必要

●研究開発事業の知見活用

NEDOが実施しているネオジム磁石回収の研究開発事業について情報収集を行い、有効な知見の活用を図る

4. メーカー等との情報共有

今後も継続的に情報共有を行うための仕組み構築が必要

①メーカー

- ・ 回収効率化に必要な情報を得るための仕組み作り
- ・ 設計改善要望等、意見交換のできる場の設置

②二次処理精錬業者

- ・ 引き渡し条件に関する情報交換の継続

《今後の進め方》

- 1) 今回の実証事業結果を取りまとめた「小冊子」を5月中に完成させ、会員に配布する。
- 2) 6月下旬以降、各ブロックの要請があればブロック会議において、結果の詳細を報告する。

《環境省webサイトの更新について》

環境省では、自動車リサイクル法の施行開始8年目を迎えたのを機に、同省webサイト上の自動車リサイクル関連頁を刷新しました。自動車リサイクルに関する法令、関連資料、施行状況、よくある質問集などの諸情報が大変見やすく整理さ

れています。自動車リサイクルに関する制度上の疑問などの解消には大変役立つと思われますので、有効にご活用ください。

<http://www.env.go.jp/recycle/car/index.html>

(カーソルを合わせ、Ctrlボタンを押しながら左クリック)

～4月第3週(17日)の鉄スクラップ動向～

- ◆トルコ向け鉄スクラップ相場、ジリアン展開続く
- ◆HMS1&2(80:20)CFR・380ドル割れ

トルコ向けの鉄スクラップ相場は、引き続きジリアンの展開となっている。HMS1&2(80:20)の中心値は、3月末のイースターの祝日が明けてからはしばらく392ドル(CFR)前後を維持していたが、その後は小幅な下げが続き、今週入りとともに378ドル(CFR)(現地4月15～16日現在)どころとなり、わずかながらついに380ドル(CFR)を割り込んだ。

現地筋によると、直近では北欧方面からのトルコ・イズミル着の輸入で、2万トンのHMS1&2(80:20)と2万トンのシュレッター、および2,000トンのP&Sの大型船による契約が発生した。正確な価格はまだ明らかになっていないが、全体の平均で385ドル(CFR)での契約という見方があるほか、HMS1&2(80:20)が382ドル(CFR)、シュレッターが387ドル(CFR)、P&Sが392ドル(CFR)と見ている筋もある。

なお、トルコミルのひとつが15日に鉄スクラップの入札を行う予定があったが、これは16日以降に延期となった。ディーラーはこの結果を注視しているところだ。

ただトルコミルの足元の引き合いは弱く、新規成約の数が非常に少ないところを見ると、しばらくは弱基調が続くそう。

関東地区・値下げ改定で値下げ広がる～電炉の半数は即日対応見送り

関東では17日、各メーカーに値下げの動きが広がった。値下げ幅は各社500円どころ。東京製鉄宇都宮と同様に、Cプレスやダライ粉類の値下げを見送るところもある。H2炉前実勢価格は1トあたり

32,000～33,000円中心、高値33,500円見当となった。ただ関東主要電炉16社のうち、17日から値下げ対応したのは8社。湾岸浜値は500円どころ下落。H2浜値は32,500～33,000円中心となった。一部、中心値を下回るところもある。

東海地区・17日から電炉2社が500～1,000円がたの先行下げへ

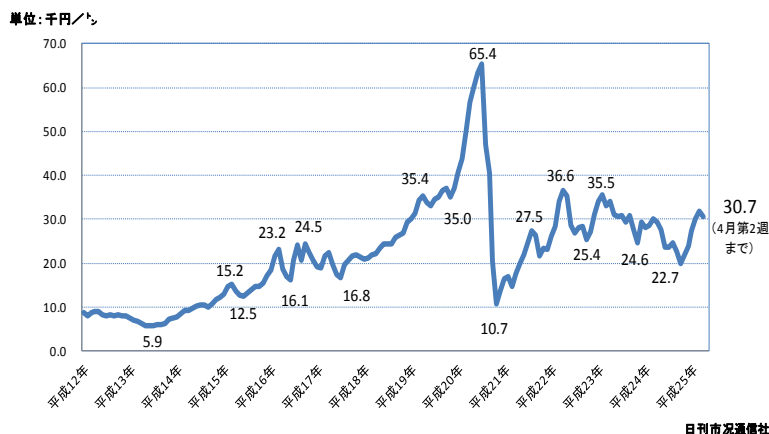
名古屋メーカーの中部鋼鉄、トピー工業の2社は17日から500～1,000円がたの先行値下げに動いている。下げ幅は中部鋼鉄が一律500円、トピー工業はヘビー、鋼ダライ粉、銑ダライ粉500円その他1,000円下げ。H2建値は中部鋼鉄28,500円、トピー工業31,000円となった。東京製鉄は下げ遅れていた田原工場の購入価格を17日から1,000円(ダライ粉類、Cプレス据え置き)下げ、陸上・海上特級を33,500円としている。

関西地区・鉄スクラップ市況は再び下落基調へ

大阪地区では17日からの東京製鉄・全拠点による価格抑制が波及する形で、電炉筋の大半が買値引き下げへ動いており、市況は再び下落基調へ向かいつつある。同地区電炉の炉前実勢価格はH2で33,000～34,000円(一部上値34,500円)、新断バラで34,500～35,500円、鋼ダライ粉バラで30,500～31,500円(一部上値32,500円)見当へ後退した。姫路地区も500円の下落。H2炉前実勢価格は32,000～32,500円見当。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、4月17日午後時点のもの)

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



4月17日の国内スクラップ炉前実勢価格

		H2		気配
関東	北関東	32,000	～ 33,000	値下がり
	南関東	32,000	～ 33,000	値下がり
名古屋		32,000	～ 33,000	値下がり
関西	大阪	33,000	～ 34,000	値下がり
	姫路	32,000	～ 32,500	値下がり



～自再協からの緊急要請について～

去る4月11日付けで、自動車メーカー5社より、特定車両の助手席エアバッグのリコールの届け出が行われました。これら車両で、リコールの改善措置が行われていないものについては(処理済車両はステッカーにて判別可)、車上作動処理及び再資源化処理の際に、インフレーターが破裂・延焼するなどにより予期せぬ事故発生の可能性があります。かかる事故等の防止のため、自動車再資源化協力機構(自再協)では、当該車両の**助手席エアバッグ**の取外し回収について解体業者の協力を強く求めています。ご協力よろしくお願いいたします。

ELV機構事務局

※ELV機構HP(<http://www.elv.or.jp/>)「新着情報」参照。

※本件に関する情報が以下に公表されていますので、ご覧いただき、適正な処理を行ってください。

◆ご協力をお願い(作業手順等の詳細)

http://www.elv.or.jp/media/Rakude/20130412150803-130412_AB_RCall-2.pdf

◆対象車両の車台番号、車両写真等

http://www.elv.or.jp/media/Rakude/20130412150803-130412_AB_RCall-1.pdf

◆国土交通省ホームページ: リコールの詳細情報

<http://www.mlit.go.jp/jidosha/recall.html>




読者層は、全国のスクラップディーラーを中心に鉄鋼メーカー、商社、自治体、研究機関など







日刊市況通信

出版物案内

定期出版物

- 日刊市況通信
- メタルリサイクル・マンスリー

書籍・その他

- メタルスクラップ図鑑
- 鉄スクラップ関連資料集
- 自動車リサイクル法解説集
- メタル元素メーカーリサイクル事典
- 全国メタルリサイクル名鑑

代表者ご挨拶

代表取締役社長
山内重信

株式会社 日刊市況通信社

【日刊市況通信】金属リサイクルの専門紙のご案内

日刊市況通信は1カ月間、無料でお試しいただけます
一度、お読みになってみませんか？
お気軽にお申込み下さい

日刊市況通信は、日本で唯一の金属スクラップ専門紙です。
創業以来60余年にわたり、金属スクラップ産業の変化を
モニターし続けています。
日刊紙（祝日を除く月～金曜日発行）では
日々のスクラップ・マーケットを分析。
月刊の「メタル・リサイクル・マンスリー」は中長期的に
マーケットを分析し、解説を加えています。
さらに、関連する家電リサイクル、自動車リサイクルなどの
ニュースを積極的に取材し、総合的なリサイクルに対応した
情報を提供しています。

ホームページもご覧ください。
<http://www.mrj.jp/>

その他のサービスも充実しています
〈メール速報、読者専用HP、関連書籍など〉

◇メール速報サービス
携帯およびパソコンのメールアドレスへ、東京製鉄建値変更、
東西の鉄スクラップ共同輸出入札（テンダー）落札価格、
非鉄地金の建値変更など、金属スクラップ相場の
指標となる情報をいち早くメール送信します。
外出先でも最新情報をチェックできます。

◇読者専用HP
毎日の「日刊市況通信」が朝一番から、
弊社のホームページより閲覧できます。
また、最新の価格データなどもアップしています。

◇関連書籍
各種のスクラップを写真入りで説明した「メタルスクラップ図鑑」、



日刊市況通信は1カ月間、
無料でお試しいただけます！
一度、お読みになってみませんか？
お気軽にお申込み下さい

金属リサイクル専門紙「日刊市況通信」のご案内

日刊市況通信は、日本で唯一の金属スクラップ専門紙です。
創業以来 60 余年にわたり、金属スクラップ産業の変化をモ
ニターし続けています。

日刊紙（祝日を除く月～金曜日発行）では日々のスクラ
ップマーケットを分析。月刊の「メタル・リサイクル・マンスリー」
は中長期的な動向を分析し、解説を加えています。

さらに、関連する家電リサイクル、自動車リサイクルなどの
ニュースを積極的に取材し、総合的なリサイクルに対応した
情報を提供しています。

ホームページもご覧ください。 <http://www.mrj.jp>

その他のサービスも充実しています。
◇メール速報サービス
◇読者専用 HP
◇金属リサイクル企業などの検索システム「MR Navi」
◇関連書籍
メタルスクラップ図鑑
鉄スクラップ関連資料集
自動車リサイクル法解説集
メタル元素メーカーリサイクル事典
全国メタルリサイクル名鑑

日刊市況通信社の概要

金 社 名 代 表 者 制 裁 者 大 阪 本 社	株式会社 日刊市況通信社 代表取締役社長 山内重信 昭和 27 年（1952 年）2 月 〒 542-0073 大阪府大阪市中央区日本橋 1 - 17 - 20（日本橋丸中ビル 5F） TEL：06 - 6631 - 5651 FAX：06 - 6631 - 5725 osaka@mrj.jp 〒 101-0031 東京都千代田区東神田 1 - 5 - 5（マルキビル 4F） TEL：03 - 3864 - 6021 FAX：03 - 3864 - 6024 tokyo@mrj.jp 〒 453-0834 愛知県名古屋市中村区豊国通 1 - 26 - 1（大鋼ビル 3F） TEL：052 - 411 - 6521 FAX：052 - 411 - 6530 nagoya@mrj.jp
東 京 本 社	
名 古 屋 支 社	
株 式 会 社 日 刊 市 況 通 信 社	

全国各地の金属リサイクル業者の事業所や自動車解体業者、
鉄鋼メーカーなどを名簿化した「全国メタルリサイクル名鑑」、
重要データを集積した「鉄スクラップ関連資料集」など、
関連書籍を発行しています。
研修に、営業にとお役立て下さい。

◇金属リサイクル企業などの検索システム「MR Navi」
掲載企業は、金属リサイクル事業者全国約550社（1,520 事業所）、
加工処理設備メーカー等約40社、行政・関連団体約50 団体、
製鋼・精錬メーカー・商社等約120 社。
世界でも他に例のない規模の金属リサイクル事業に特化した検索サイトです。
「金属リサイクルのすべてをここに」をコンセプトに、
関連事業者の全てをつかむことができるサイトです。
業界関係者からご好評をいただいております。
海外からのアクセスも増えています。

【日刊市況通信の購読料について】

▽1年⇒78,750円

▽半年⇒39,900円

※いずれも前納

お問い合わせ、お申込みはこちらまで。
メール：tokyo@mrj.jp
TEL03-3864-6021
FAX03-3864-6024

ご連絡、お待ちしております。
まずは無料試読から！
お気軽にお申込み下さい。

【配信元】
株式会社 日刊市況通信社
〒101-0031
東京都千代田区東神田1-5-5（マルキビル4F）
Nikkan Shikyo Tsushinsha Co.,Ltd All rights reserved.